

2013年3月

● 霊山 PJ (2013年 03月 30日)

霊山プロジェクト 現地作業と実務者会議(3月30日)を実施。春の代かき作業計画、水田の竹炭・土壌のサンプリングと放射能濃度計測

● 水田除染活動(2013年 3月 30日)

当日は快晴で少し寒かったですが、水田 A,B の竹炭、土壌のサンプリングをおこない、放射能濃度計測をしました。また来年度の代かきのための区割り作業を行いました。



作業前現場打合せ



水田 A 表層に浮き出た竹炭粗大
粒子



採取サンプリングの放射能濃度計
測



水田区割り作業



水田 A(手前)と水田 B(奥)では
雑草の生え方が異なる



2月までは雪が積もっていましたが、いよいよ春の兆し

伊達市から「25年の稲作意向確認及び放射線低減対策実施に伴う…」の書類が発行されており、プロジェクト活動への影響が生ずる可能性があり、今後注意深く検討をしていきます。

● 霊山 PJ 東京実務者会議 (2013年 03月 22日)

REPA 本部事務所 18:00~20:00

● 環境-エネルギーフォーラム2013 in 八王子[市民公開フォーラム] (2013年 03月 16日)

REPA 篠田事務局長が首都大学東京南大沢キャンパスにおいて開催されました、環境-エネルギーフォーラム2013 in 八王子 [市民公開フォーラム] で3.11以降の環境エネルギー問題への考え方について講演をおこないました。

●佐藤茂夫先生を囲む会（2013年03月15日）

当協会の代表理事である、日本工業大学の佐藤茂夫教授は2013年3月を持って同校を定年退職されます。そこで日頃、佐藤先生にご指導、お世話になった方々が集い、「佐藤茂夫先生を囲む会」が、浅草カフェ・ムルソ（スカイツリーの夜景がきれいでした）で執り行われました。当日は30有余名のご参加を戴いて、時間のたつのも忘れ佐藤先生との懇談が続きました。記念品として、佐藤先生がこれから習字を始めるといふことで、習字道具一式（有名な端溪硯を含む）が送られました。これからも健康に留意され、益々代表理事としてのご活躍をお願い致します。



佐藤先生ご挨拶



佐藤先生を囲んで歓談



佐藤先生囲みでの集合写真

●日本工業大学大学院技術経営研究科で「原子力発電を考える～ エネルギー問題の視点からの展望～」というテーマで講演(2013年3月7日)

REPA 会員の市橋利夫・千葉大学大学院特任研究員は、3月7日(木)日本工業大学大学院技術経営研究科で、「原子力発電を考える～ エネルギー問題の視点からの展望～」と題して、講演しました。受講生は一旦社会に出てから再度勉強し修士号を取得しようとする、在校生・来年度入学される方々と卒業生でした。

[内容]

1. 放射能汚染に対する基本認識
2. 原子力発電の仕組みと原子炉の構造
3. 福島第一原子力発電所の中身
4. この事故から学べること
5. エネルギー問題から見た原子力（日本は?世界は?）
6. 今後の原子力発電について

90分の講演時間内では語りつくせないほど充実した内容でした。皆さんが原子力発電のあり方、放射性廃棄物の処理、さらには日本・世界のエネルギー問題に対して、さらに理解を深める良い機会になりました。



講演する市橋利夫会員



日本工業大学での講演風景

●宮代・まちづくりシンポジウム（2013年03月2日）

3月2日（土）日本工業大学でおこなわれました。篠田事務局長がレポートします。

「宮代町の未来シンポジウム実行委員会」（代表：小島直之）主催によるシンポジウムが3月2日（土）開催され、地元の住民をはじめ他市からの参加も併せ、約50人が参加して開催されました。舞台は、日本一のエコ大学として注目されている日本工業大学 LC センターのマルチメディア教室。発表内容はそれぞれが取り組んできた実験や研究、経験に基づいた内容が手際よく発表され、会場からも質問や意見、激励が数多く送られました。3.11以降、地産地消の食料・エネルギー自活などが問われているなかで、10代、20代初めの若い世代が、自らが生まれ育った宮代町の未来について、熱い議論を展開する「場」を自らの力で設けたところに大きな意味があったように思います。そして、その中心になっているツールが再生可能エネルギーの利用にあるという認識が浸透していることを伺わせてくれました。ただ、会場の聴衆の多くは年配者。若い世代の動員がもう少し多く、会場から若い世代の意見が発せられていたら、より意義深いものになったのではないかと思います。

宮代まちづくりシンポジウム（3月2日（土）日本工業大学で開催）が4月2日付け埼玉新聞に掲載されました